

参加者、

秋元、浅田、在原、石川、伊東、梅沢、岡部、北島、
小海、島崎、田中、中島(邦)、中山、並木、吉川、
町田、松田、安田、山岡、遊佐、横関、吉本、
ゲスト一西、永山(雑誌社編集長)、

June 4, 2000

BMW RS Club

かわらばん

爽やかな緑の箱根を抜け、
潮風に吹かれて伊豆高原へ
そして大観山で日米交歓会
かわらばん・中島邦雄 挿絵・小倉玲子

都内では梅雨入り間近を告げる紫陽花(あじさい)が、未だ小さいながらも花をつけ、白と青紫の茉莉花(まつゆ)がジャスミンのような強い香りと共に咲いています。雨の似合う花菖蒲も日毎にその背丈を伸ばし、高い山に入ると豊満な年増芸者を思わず石楠花(しゃくなげ)が、ボタンのようにふくよかに、赤やピンクそして白の花をつけています。この頃になると山々では雲が湧き、それが深い霧となって木々の葉に宿り、やがてその滴(しずく)が小さな流れとなって草や木に潤いを与える、秋には色とりどりの見事な花を開かせ、あの素晴らしい紅葉を造り出すとか。

このところ天気予報が猫の目のように変わり、長期予報では六月四日の当日は間違いなく雨の筈が、信心深い我々に天や神々の御加護が有ったか、ピーカンの素晴らしい一日をお与え下さいました。遅くまで降っていた前夜来の雨も上がり、澄み切った大気の中で鳥のさえずりが一際高く響く中を、集合地の東名高速「海老名SA」へと愛車を出しました。この天気で混み合う首都高速の渋谷を過ぎると、見事な青空の広がる中に周囲の山々を従えるかのように、富士山がクッキリとその勇姿を現し、今日一日の晴天はもう間違ひありません。「海老名SA」は車やバイクで埋まり、仲間のものとおぼしきバイクが、あちらに2台こちらに3台といった案配に駐車しています。今日はネコ・パブリッシング「BMW・バイク」編集長の永山さんが、我々の取材に同行して下さいました。ゴマ塩の髪を生やした一見優しげな彼は、BMWクルーザーでの参加です。

定刻9時にゲストとも17台で出発し、すぐ先の厚木で高速を降り小田原・厚木道路に入りました。すぐ目の前で二台のパトカーが出動して行きましたが、天気が良くて警察でもかき入れ時なのか、やたらに白バイやパトカーが目につく朝です。二つの料金所を出ると、右手に山高帽子を伏せたような形の金時山が、あたかも富士山に寄り添うかのようそそり立っているのが見えました。雨上がりで緑が一際鮮やかです。

ほんの一走りで箱根新道入口に到着しましたが、そこへヒョッコリと秋元さんが現れました。この人はいつも何処からスット合流てきて、まるで仮面ライダーみたいな人だな~と思いました。しかし一緒に「海老名SA」を出た筈の数人が一向に来ず、「纏めて御用になったかな」と話していたら、なんと梅沢さんの新造バイクのイグニッション・リレーがパンクして、エンジンがスタートしなくなったとか。こうなると部品交換以外に直す手立てが無い状態なのです。これではバイクを置いて彼は茨城まで帰るしかありません。ところがビックリしたこと、一緒に居た安田さんがそのパーツを持っていて交換し事なきを得たそうです。彼が偉いだけでなく梅沢さん自身も、なんともツキに恵まれた人ではありませんか。早速に我々の分まで宝くじを買って下さい。古い二本サスのバイクに乗っている皆さん。明日は我が身かも知れません。パーツを持ち歩いた方が良さそうですよ。

箱根新道から十国峠を越え、伊豆スカイ・ラインの入り口で横関さんが合流し、各々が亀石峠へと向かいます。花の少ないシーズンですが、途中の山道に白いヤマボウシの花が、ヒッソリと咲いていたのがとても印象的でした。ちなみに前日の箱根は深い霧に包まれていたそうですが、今日は爽やかに晴れ上がり、そんな中で北さんは¥750万円というドマーニの見事なサイドカーで参加し、辺りの注目を独り占めにしていました。そして全員が各々のバイクを並べた前に雁首を揃え、編集長の記念撮影がありましたが「皆さん少し緊張していますね~」と言われました。仕事があるという在原さんと二日酔いの並木さん(年を考へ下さい)が此処から引き返してゆき、我々は料金所を出て左折し、宇佐見から国道135号には入り、今日の休憩地の伊豆高原へと向かって走ります。

山の景色からやがて左手に日を受けて輝く海が広がり、真鶴沖の三石が海に浮かぶように見えてきました。シュロの茂る海岸線を気持ち良く走ると、引き潮の海で親子連れが楽しげに水遊びをし、砂浜で投げ釣りをする人々の姿も見えました。川奈から城が崎海岸を抜け、大室山に近い伊豆高原のご存じ「ゆき文」に着いたのは正午少し前でした。海側からの登り道は緑濃い桜並木に覆われ、毎度のことながら毛虫が落ちて来ないかが気になる處です。もう店の前の甘夏ミカンはその見事な花を散らしていましたが、あの芳醇な香りに包まれたシーズンは本当に忘れられません。いつものように色白でボインの素敵な女将が、にこやかに我々を迎えてくれました。時分時でしたが混み合う前に座敷にズラリと並んだら「お飲み物はお茶ですか?」と女将に聞かれたのにはビックリ。喉が乾いているのに「生ビールだとなかなか来ないから」と誰かが言い、ビンのビールを頼んだら中瓶が十何本しか冷えてなく、生ビールやらウーロン茶で乾杯し、早速にいつもの旨いゴマ油のテンプラに囁りつきました。町田さんは女将が美人で、その上にテンプラが最高だとご機嫌で、女将に盛んにほめっていました。何はともあれ晴天に気の合う仲間と気持ち良く走り、そして旨い物で一杯やれば、人生はゴクラク極楽です。

編集長の永山さんが「アメリカ人のグループが大観山にBMWで集まって居る筈です」と言うので、早速に行ってみました。其処には成程アメリカ中のナンバーを付けた、10人程のBMW好きの男女グループが、GSに乗って集まっていました。話を聞くと一度西海岸に終結してバイクを船に積み、横浜から行動を開始して九州の方まで走り、中国からシベリアを通りBMWの故郷ミュンヘンが最終目的地。



そこから大西洋を横断して合計八十日間も遊び歩くとか。何とも豪勢でゆとり有る余生の送り方に感心したり、羨ましいやらで、彼等が実に輝いて見えました。此処でも北さんのサイドカーは大人気で、自分のバイクと交換しない? と言うアメリカ人が居ましたが、彼と一緒に居た女の人も交換するバイクに付けてくれるかは聞き漏らして残念でした。日米BMWバイク同好者の楽しい一時でした。幹事の田中さん、いろいろとご苦労様でした。